

東北地方 1か月予報

(1月14日から2月13日までの天候見通し)

平成18年1月13日
仙台管区気象台発表

<特に注意を要する事項>

1週目は気温が平年より高くなる日がありますが、2週目には平年並に戻る見込みです。記録的な積雪となっていますので、多雪地ではなだれに注意してください。

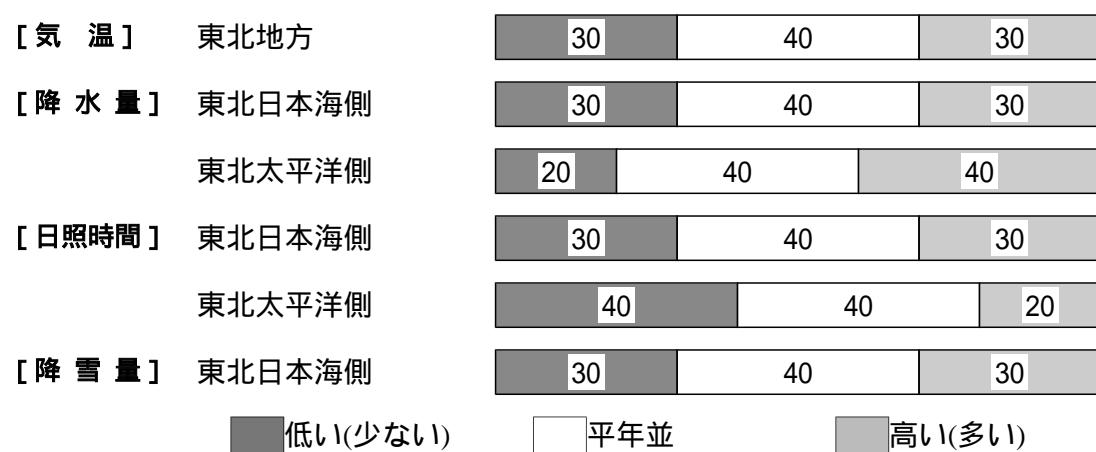
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。
冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北太平洋側では本州南岸を進む低気圧の影響を受ける日があるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は平年と比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

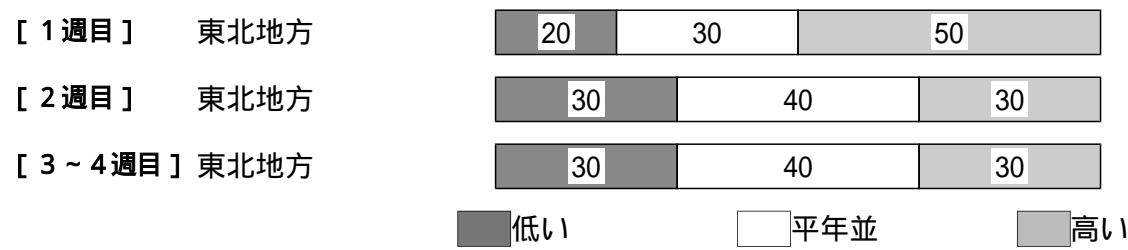
向こう1か月の平均気温は東北地方で平年並、降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並が多い、日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で平年並か少ない、東北日本海側の降雪量は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は高い、2週目と3～4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 1月14日(土)～2月13日(月)
1週目 : 1月14日(土)～1月20日(金)
2週目 : 1月21日(土)～1月27日(金)
3～4週目 : 1月28日(土)～2月10日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は1月20日

3か月予報：1月25日（水） 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と1週目、2週目、3～4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	降雪量(cm)	気温()		
					1週目	2週目	3～4週目
大船渡	0.4	49.5	155.4	31	0.6	0.2	0.3
新庄	-1.5	173.3	48.5	294	-1.5	-1.6	-1.5
若松	-0.9	75.9	92.6	193	-0.8	-1.0	-1.0
深浦	-0.8	87.0	37.7	136	-0.4	-0.9	-0.9
青森	-1.7	146.0	64.6	266	-1.5	-1.9	-1.8
むつ	-2.0	91.8	85.0	190	-1.6	-2.1	-2.1
八戸	-1.5	54.8	139.5	113	-1.2	-1.6	-1.6
秋田	-0.4	104.6	54.3	146	-0.2	-0.5	-0.5
盛岡	-2.3	52.0	134.4	121	-2.2	-2.5	-2.4
宮古	-0.2	67.2	168.6	61	0.1	-0.3	-0.3
酒田	1.0	138.5	47.6	150	1.3	0.9	0.9
山形	-0.8	74.7	97.1	173	-0.7	-0.9	-0.8
仙台	1.2	38.0	161.5	38	1.4	1.0	1.1
石巻	0.3	37.7	176.9	14	0.5	0.1	0.2
福島	1.2	45.8	149.7	89	1.3	1.0	1.1
白河	-0.1	30.3	169.4	58	0.0	-0.2	-0.2
小名浜	3.2	51.3	196.5	0	3.4	3.1	3.1

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971～2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.4～+0.8	74～112	95～107	87～107
東北日本海側	-0.4～+0.7	89～105	91～111	91～110
東北太平洋側	-0.5～+0.8	63～113	97～105	80～108

(3) この予報期間の1週目、2週目、3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
東北地方	-0.7～+0.9	-0.6～+0.9	-0.5～+0.7
東北日本海側	-0.7～+0.9	-0.6～+0.9	-0.5～+0.7
東北太平洋側	-0.7～+0.9	-0.6～+1.0	-0.5～+0.8

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年1月13日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(1月14日~2月13日):

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北太平洋側では本州南岸を進む低気圧の影響を受ける日があるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は平年と比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(1月14日~1月20日):

明日(14日)から明後日(15日)は、低気圧の影響で雨や雪の所が多い見込みです。その後は冬型の気圧配置の日が多く、東北日本海側や東北太平洋側山沿いは雪や曇りでしょう。東北太平洋側平野部は晴れの日が多い見込みです。積雪の多い所ではなだれや融雪による災害に注意が必要です。

平均気温は高いでしょう。

2週目(1月21日~1月27日):

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北太平洋側では本州南岸を進む低気圧の影響を受ける日があるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は平年と比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(1月28日~2月10日):

冬型の気圧配置となる日が多いでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雪の日が多く、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

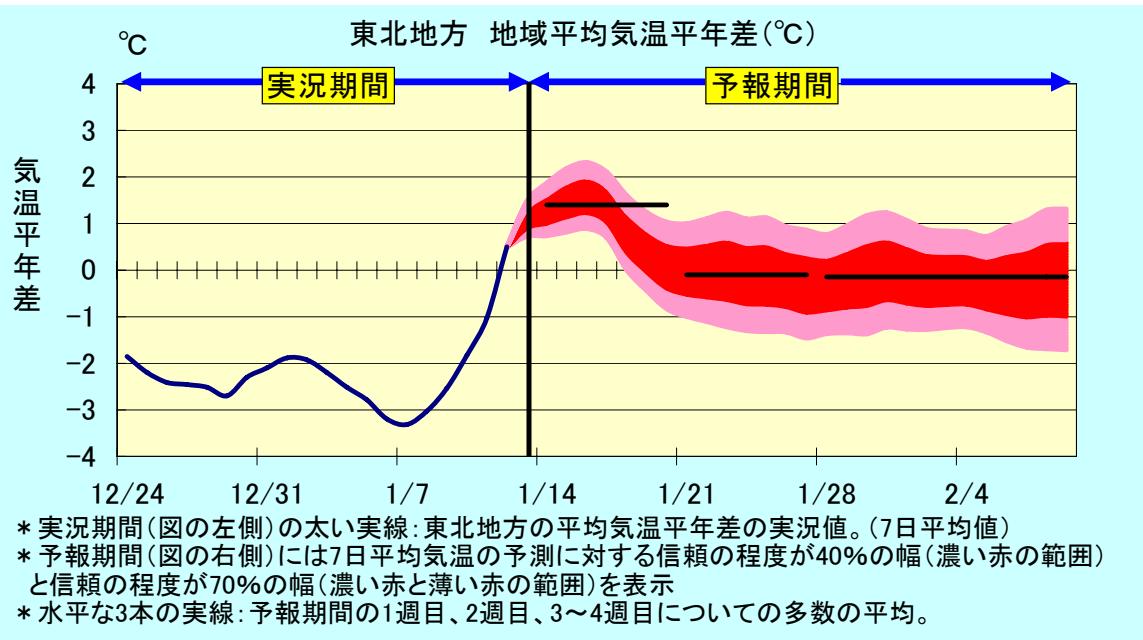
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	5.0日	1.2日	1.2日	2.6日
東北太平洋側	18.4日	4.7日	4.5日	9.2日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目を「高い」、2週目、3~4週目を「平年並」と予測している。予報は数値予報どおりとする。なお、数値予報の信頼度は小さい。

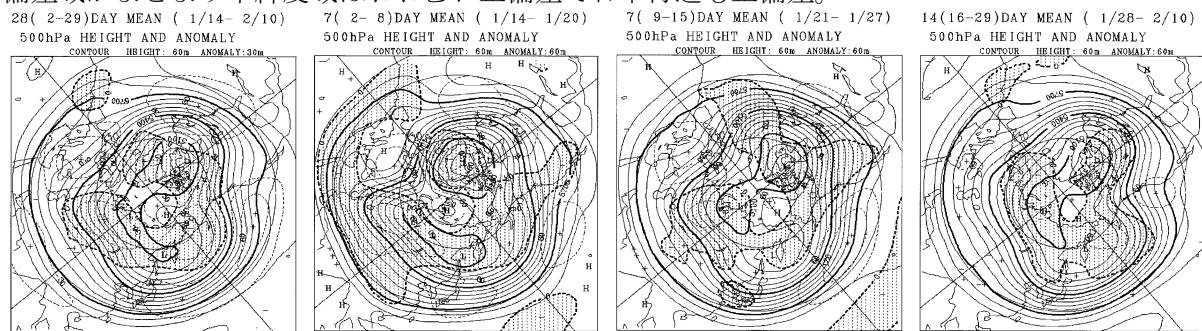


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、太平洋中緯度帯に広がる正偏差域に覆われる。一方中央シベリアからカムチャツカ半島、アラスカにかけては負偏差。これまでのような日本付近に強い寒気を南下させる流れは解消する見込み。

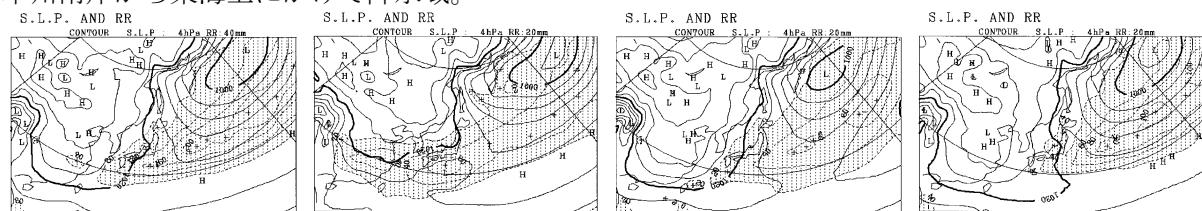
1週目は、日本付近は太平洋中緯度帯に広がる明瞭な正偏差に覆われて寒気の南下は弱い。2週目は、黄海から西日本にかけて負偏差、その他の極東域は正偏差。一方、太平洋中緯度帯は1週目に引き続き明瞭な正偏差となり、北日本への寒気の南下は一時的。3~4週目は、高緯度域に負偏差域がまとまり中緯度域はおおむね正偏差で日本付近も正偏差。



地上気圧と降水量：

月平均では、平年と同様に冬型の気圧配置、本州南岸は低圧部。明瞭な降水域が本州南海上から東海上にかけて見られ、東北太平洋側ではこの影響がある見込み。

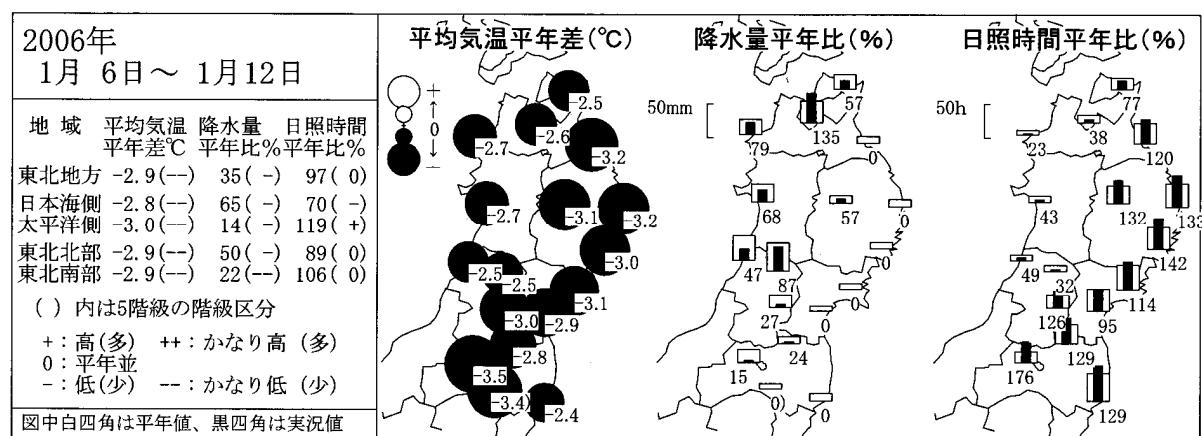
1週目は、冬型の気圧配置が緩み、大陸の高気圧が北から東北地方を覆う。華南から本州南岸にかけてまとまった降水域。2週目は平年と同様に冬型の気圧配置。本州南岸は低圧部で本州南岸から東海上にかけてまとまった降水域。3~4週目も平年と同様に冬型の気圧配置。日本海側と本州南岸から東海上にかけて降水域。



4. 最近1週間（1月6日～1月12日）の天候の経過

この期間、先週に引き続き強い寒気の南下により気温の低い状況が続いた。東北日本海側では降雪が続き、東北太平洋側では晴れの日が多くた。6日から9日は、東海上で低気圧が発達し、冬型の気圧配置となって強い寒気が南下した。10日は日本海から小さな低気圧が東進し、夜に東北北部を通過した。その後再び冬型の気圧配置となった。

平均気温は東北地方でかなり低い。降水量は東北北部で少なく、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）